

地域と共に歩む4人の地域おこし協力隊員

協力隊員として活躍する4人に、それぞれの活動について話を聞きました。地域と関わりながら活動する協力隊員たちの思いを、市から与えられたミッションとともに紹介します。

ミッション 生き生きとした文化芸術活動の再生、明日の芸術文化活動を担う人材の育成など

ミッション 子どもたちが交流できる場所の整備と運営の仕組みづくり

文化・芸術部門



伊藤 明子隊員

演出家として平成13年から滝川を訪れ、市民ミュージカルなどの上演に携わってきました。

滝川の文化活動をさらに活発にしたいという思いから協力隊員となり、現在は文化・芸術活動コーディネーターとして活動しています。

主な取り組みとして、市民が新たな可能性に気づき、挑戦できる居場所「みんくるうむ」を毎月開催しています。参加者がそれぞれの「好きなこと」について自由に語り合いながら、多様な価値観に触れ、これまで気づけなかった滝川の魅力を再発見できる居場所づくりを目指しています。

今後も、取り組みを通じて滝川の文化の土台を育み、次の世代へ受け継いでいけるよう活動を続けていきます。



子育て支援部門



本田 陽一隊員

これまでのオンライン技術を活用した活動経験を生かしたいと考え、市の協力隊員となりました。

現在は、放課後に子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりに取り組んでいます。放課後の居場所として児童館がありますが、「小学校高学年になると利用しなくなる」という声もあり、新たなつながりの場が必要だと感じました。

そこで、居場所の1つとしてメタバース（インターネット上の仮想空間）の活用を行っています。オンラインで交流できる環境があれば、天候の悪い日でも気軽につながることができ、子どもたちの交流の幅を広げることができます。今後も、対面とオンラインの両面から、子どもたちが安心してつながれる環境づくりを進めていきます。



ミッション イベントの企画運営、SNS等を活用した情報発信、特産品の認知向上の取り組みなど

ミッション 市内農家で実践的研修、栽培技術等の習得に係る座学研修、地域活動への参加

観光部門



所 祐太隊員

道内の菓子メーカーで営業職として働いていましたが、「地域に密着した仕事がしたい」という思いから、協力隊員になりました。

現在は市公式Instagramでの発信や、4月に誕生した観光課公式キャラクター「ひつじカモしれないシュール」の認知向上に取り組んでいます。

観光情報の発信では、時事ネタを取り入れるなど、多くの方に興味を持っていただけるよう工夫しています。自身がモデルとして登場することも多く、イベントで声をかけていただく機会も増え、投稿を見ていただいていることを実感し、やりがいにつながっています。

今年は市公式Instagramフォロワー数1万人を目標に、これからも市の魅力を多くの方に伝えていきます。



▲ひつじカモしれないシュール



▲市公式Instagram



農業部門



小田 友貴隊員

協力隊員として3年目を迎え、現在は米や麦の栽培に取り組んでいます。

もともと別の仕事に就いていましたが、農家になることを目指し、就農に必要な技術を学んでいます。

1年目は農作業の一つひとつを覚えることが大変でしたが「自分のやりたい仕事に出会えた」という思いが支えとなり、今では夢中になって取り組める天職だと感じています。

今年度で協力隊員の任期は終了しますが、これからも滝川で農家として、より良い作物づくりに励んでいきたいと考えています。お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず、将来的には独立し、恩返しができるよう努めていきます。

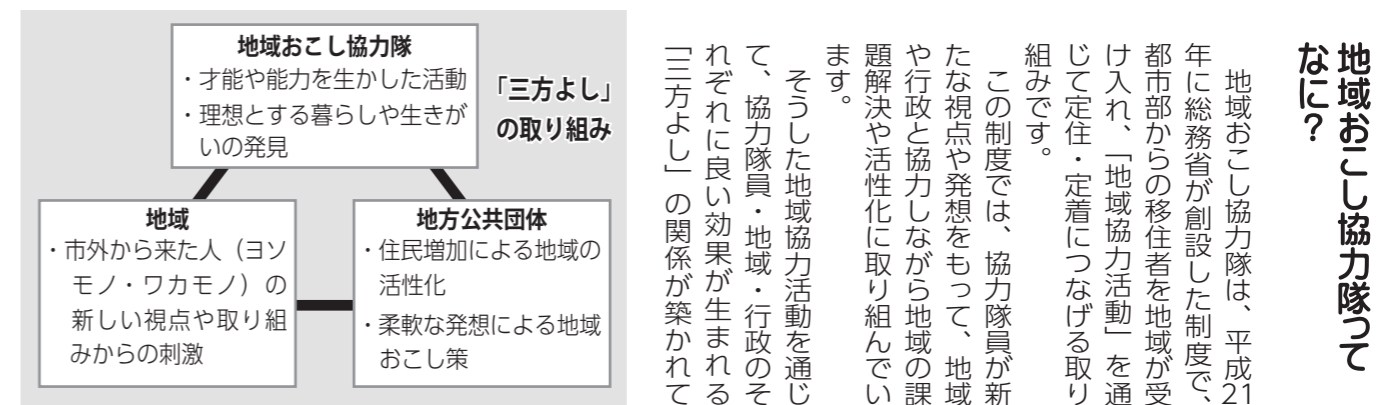


特集

地域おこし協力隊が滝川を盛り上げる！

地域おこし協力隊員（以下、協力隊員）は、都市部から滝川に移住し、それぞれの専門的な知識や経験を生かしながら、地域の活性化に取り組んでいます。

本特集では、現協力隊員や退任後も滝川市に定住して活躍されている方々をご紹介します。



地域おこし協力隊ってなに？

地域おこし協力隊は、平成21年に総務省が創設した制度で、都市部からの移住者を地域が受け入れ、「地域協力活動」を通じて定住・定着につなげる取り組みです。

この制度では、協力隊員が新たな視点や発想をもって、地域や行政と協力しながら地域の課題解決や活性化に取り組んでいます。

そうした地域協力活動を通じて、協力隊員・地域・行政のそれぞれに良い効果が生まれる「三方よし」の関係が築かれて

います。協力隊員の使命（ミッション）や募集条件は自治体によってさまざまです。

滝川を盛り上げてきた地域おこし協力隊

滝川市では、平成26年度に2人の協力隊員が着任して以来、これまでに15人の協力隊員（現役の協力隊員除く）が産業振興や農業、観光振興など、さまざまな分野で活躍してきました。

また、協力隊員としての任期が終了した後も市内に定住し、起業や就業、地域活動への参加を通じてまちに関わり続けている方もいます。

これからの地域おこし協力隊

市では現在、4人の協力隊員が子育て支援、文化・芸術、農業、観光の各分野で地域の活性化・振興に取り組んでいます。次ページから現協力隊員の活動紹介や、任期終了後も定住し、活躍を続けている元協力隊員を紹介いたします。

市内で活動する協力隊員を見かけた際はぜひ、応援の声をかけをよろしく願います。

任期終了後もこのまちで ～滝川に根ざす協力隊 OB～

協力隊員としての活動をきっかけに、任期終了後も滝川に定住する道を選んだ方がいます。これまでの経験や技術を生かしながら新たな一歩を踏み出し、地域との交流を続けている協力隊 OB の方から2人をご紹介します。

\\ H26～28年度 //
初代協力隊員



菅原哲さん

スガワラ
デザインオフィス
名刺・チラシ等のデ
ザイン・印刷、ウェ
ブ・動画制作等。
TEL 090-3642-1165

滝川寺子屋学習塾
対象：小・中学生
問合せ先：23-2286
(郷芳寺)

隊員当時の印象に残っていること
観光部門で SNS を活用した情
報発信に取り組み中で、地域の
方々が市外から来た私を温かく受
け入れてくださったことが、とて
も印象に残っており、滝川に定住
するきっかけとなりました。

地域とつながりながら暮らしていく
現在は、デザインオフィスと、
寺子屋学習塾を営んでいます。
また、協力隊員時代から、地域
の方々と一つのものを作り上げる
ことにやりがいを感じており、仕
事以外でも地域に関わりたくとい
う思いから、たきかわ紙袋ランタ
ーンフェスティバルの実行委員会に
も参加し、地域の方々と一緒にイ
ベントをつくり上げています。
これからも地域と関わりながら
滝川で暮らしていきたいです。

\\ H27～29年度 //
協力隊員



佐藤利彰さん



オールハンドメイドレザー
ジャメヴェ クイール
時間：12時～20時
※不定休
朝日町東4丁目1-18
TEL 090-7658-8300

隊員当時の印象に残っていること
着任時は、新しい環境での暮ら
しや商店街の空き店舗を活用した
店舗運営に期待を感じていました。
任期中の活動としては現在と変
わらず、商店街活動を通じて革製
品の製造販売を行っていました。

滝川で育む暮らしと仕事
協力隊員として日々の取り組み
を重ねる中で、滝川に腰を据え、
仕事を続けることがまちへの貢献
につながると感じるようになりました。
任期終了後には店舗を現在の
の場所に移転し、営業を続けてい
ます。
また、ワークショップの開催な
どを通じて地域との交流も深めて
おり、これからも人とのつながり
を大切にしながら、まちに関わっ
ていきたいと考えています。

協力隊員の活動に参加してみませんか

TakikawaVerse(メタバース)
最近あったことを話したり、やっ
てみたいことを相談したりするこ
とができる、メタバース空間です。
※メタバース・・・インターネット上
にある三次元の仮想空間




TakikawaVerse は閉鎖しました



本田隊員
TakikawaVerse

たまり場・しゃべり場
みんくるうむ
6月27日(土) 14時～
場所：まちづくりセンター
申込：二次元コードが電話で申し込み。
問合せ先：まちづくりセンター
(TEL 74-6210)
※歌のワークショップ「ピンピン足
上げてピン」も開催します！(P 8参照)



伊藤隊員
申し込みは
こちらから



伊藤隊員

**地域おこし協力隊員募集中！
～観光協会運営支援員～**

募集人数：1人
活動内容：たきかわ観光協会が実施するイベントと
事業の企画・運営、観光振興など
問合せ先：観光課 (TEL 28-8031)
市外のお知り合いの方で、興味のある方がいれば
ぜひ、ご紹介ください。

特集では、現役の協力隊員、そして任
期終了後も地域に関わり続ける OB の皆さんに
お話を伺いました。それぞれの活動内容は異なっ
ていても、地域に貢献したいという思いには共通
するものがありました。
地域おこし協力隊員の活動は、地域の「今」だ
けでなく、「これから」をつくる力となっています。
ぜひ、協力隊員のこれからの活躍にご期待ください。

地域おこし協力隊制度



「協力隊員は誰でもなれるの?」「任期終了後はどうなるの?」など、地域おこし協力隊のことが気になっている方も多いのではないのでしょうか。協力隊員の条件や任期終了後の暮らしについてご紹介します。

Q 協力隊員って誰でもなれるの?

A 基本的には、年齢制限はなく、特別
な資格も必要ありません。
ただし、今住んでいる地域で隊員に
なることはできず、都市部から地方へ
の移住が必須となっています。
自治体によっては、年齢や職歴など
に制限がある場合や、募集ごとに求め
られるスキルや条件などがある場合も
あります。

Q 任期終了後はどうなるの?

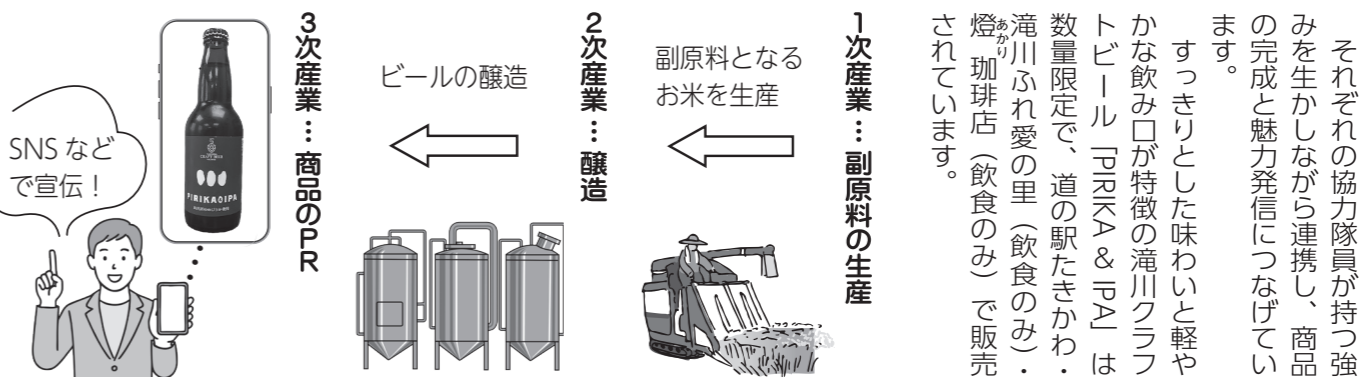
A 協力隊員の皆さんは、活動計画に基
づき定められた任期の終了後は、地域
に定住して起業したり、地元の企業や
自治体へ就職したりするなど、さまざ
まな進路が考えられます。
また、新たな地域で引き続き地域お
こし協力隊員として活動する方や、都
市部へ戻り、地域で培った経験を仕事
や暮らしに生かしている方もいます。

地域おこし協力隊員 の新たな挑戦

協力隊員として活動する中
で生まれた挑戦と、任期終了後
も続いていく新たな挑戦を紹
介します。

CASE 01
協力隊員が連携して
滝川クラフトビール
の新商品を開発

それぞれの専門性を生かしな
がら活動を行っている協力隊
員。令和7年度には、農業部
門・産業部門・観光部門で活躍
していた協力隊員4人が連携
し、滝川産ゆめぴりかを使用し
た、滝川クラフトビールの新商
品「PRKA&IPA」を開発し
ました。
開発にあたり、1次産業の農
業部門では協力隊員が副原料と
なる米「滝川産ゆめぴりか」を
生産し、2次産業の産業部門は
醸造工程に携わり、さらに3次
産業の観光部門では商品PRを
担当するなど、1次産業から3
次産業まで協力隊員が横断した
体制で取り組みました。



それぞれの協力隊員が持つ強
みを生かしながら連携し、商品
の完成と魅力発信につなげてい
ます。
すっきりとした味わいと軽や
かな飲み口が特徴の滝川クラフ
トビール「PRKA&IPA」は
数量限定で、道の駅たきかわ
滝川ふれ愛の里(飲食のみ)・
燈(あかり)珈琲店(飲食のみ)で販売
されています。

CASE 02
市で初の第三者農業
経営継承で滝川の農
業をつないでいく

農政課では、これまでも農業
の担い手確保と地域農業の継
承を目的に、協力隊員の募集を
行ってきました。令和5年度に
任用された杉下怜さんは、大阪
府から滝川に移住し、農業研修
や地域活動を重ねてきました。
そして令和7年度の任期満
了後には、市内で初めてとなる
「第三者農業経営継承」を実現。
地域の農業者から農地や経営
を引き継ぎ、新たな農業の担い
手として独立しました。
全国的に高齢化や後継者不
在による農業の担い手不足が
課題となる中、地域おこし協力
隊制度を活用した移住・就農、
そして継承へとつながるこの
取り組みは、地域農業の未来を
支える新たなモデルとなっ
ています。杉下さんの今後のさら
なる活躍が期待されます。



▲第三者農業経営継承
をした杉下怜さん